

平成30年度 高知県普通会計決算見込みについて (ポイント編)

1. 歳入歳出決算額の状況

新図書館等複合施設整備事業の終了などにより、歳入歳出規模はともに縮小。実質収支は黒字を確保。

(単位 百万円、%)

区分	30年度	29年度	増減額	増減率
歳入総額 A	445,335	472,385	△ 27,050	-5.7%
歳出総額 B	435,224	460,710	△ 25,486	-5.5%
形式収支 C (A-B)	10,111	11,675	△ 1,564	-13.4%
繰り越すべき財源 D	8,809	9,659	△ 850	-8.8%
実質収支 E (C-D)	1,302	2,016	△ 714	-35.4%

① 歳入

- 歳入総額は5.7%の減少 H29：4,723億85百万円
→ H30：4,453億35百万円 (△270億50百万円)

大口法人の税収が増加したことに伴う法人事業税の増などにより県税が増となったものの、普通建設事業費の減に伴い国庫支出金が大幅に減少したことなどにより、前年度から減となった。

② 歳出

- 歳出総額は5.5%の減少 H29：4,607億10百万円 → H30：4,352億24百万円 (△254億86百万円)

平成30年7月豪雨への対応などにより災害復旧事業費が増となった一方、新図書館複合施設整備事業の終了などに伴い普通建設事業費が減となったことなどにより、前年度から減となった。

③ 収支

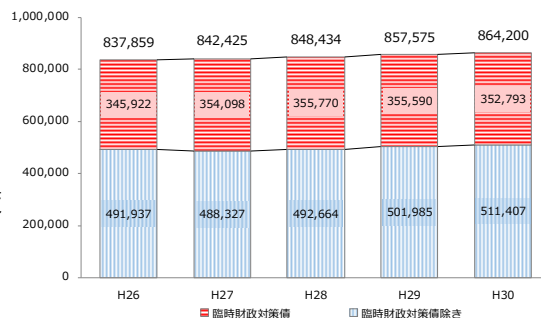
- 実質収支は13億2百万円の黒字
H29：20億16百万円 (黒字) → H30：13億2百万円 (黒字) (△7億14百万円)

2. 各財政指標の状況

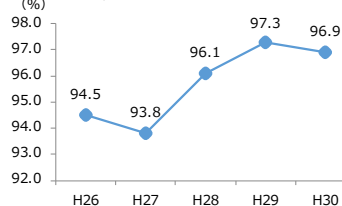
臨時財政対策債を除く県債残高については、近年の投資的経費の増などにより、微増。

経常収支比率は、地方譲与税の増などに伴い前年度から改善。

◆県債残高の推移 (普通会計)



◆経常収支比率の推移



① 県債残高

- 近年の投資的経費の増などにより、県債残高総額及び臨時財政対策債を除く県債残高は、微増。

県債残高総額 H29：8,575億75百万円
→ H30：8,642億円 (+66億25百万円)

臨時財政対策債を除く県債残高 H29：5,019億85百万円
→ H30：5,114億7百万円 (+94億22百万円)

② 経常収支比率

- 財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、地方譲与税の増や公債費の減などに伴い、前年度から改善。

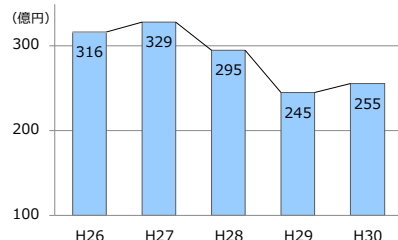
H29:97.3% → H30:96.9% (△0.4ポイント)

3. 将来に向けた基金の確保

① 財政調整的基金の状況

- 財政調整的基金の取崩し (減債基金：22億57百万円、財政調整基金：6億24百万円) を行った一方、決算剰余金の積立てや新たに防災対策基金を創設 (28億43百万円) したことにより、平成30年度末残高は255億24百万円 (10億69百万円の増) となった。

◆財政調整的基金の推移



② 特定目的基金 (防災対策基金を除く) の状況

- 国民健康保険事業特別会計の創設に伴い、関連する2基金が普通会計対象外となった影響などにより、平成30年度末残高は117億66百万円 (22億19百万円の減) となった。